

とるべきポジション

作業療法は、クライアント中心の専門職であり、クライアントは、個人、家族、集団、コミュニティ、組織、住民全体でありうる¹⁾。コミュニティの作業療法実践では、コミュニティ中心の実践アプローチ、コミュニティエンゲージメント(コミュニティと密接に関わっていること)、コミュニティによる作業中心の目標設定、評価、介入、成果評価を行う^{2,3)}。

作業療法におけるコミュニティ中心の実践の基本原則には、次のものが含まれる。

- コミュニティエンゲージメントは、信頼、尊敬、双方向性が基盤となる。
- 資源と強さに基づくアプローチは、コミュニティレベルのサービスを提供する情報をもたらす。
- 実践は作業中心であり、作業へのコミュニティの参加を増大する目的をもつ。この作業は健康を増進し、社会的文化的に意味深いものである。
- サービスは、コミュニティと共に提供され(あるいはコミュニティにより方向付けられ)、共有された作業の目標の達成をサポートしたり実現したりするものである。
- 介入と可能化の方法は、コミュニティと共に、あるいはコミュニティにより選択されたもので、作業参加、健康、幸福のバリアに関わるものである。
- コミュニティ中心の実践の成果は、コミュニティレベルの健康、幸福、インクルージョンにおける向上を通して示される。

ポジションの重要性や作業療法にとってのテーマ

作業療法士はコミュニティ中心のアプローチを活用し、コミュニティと共に実践し、コミュニティの健康と幸福とインクルージョンを改善するイニシアティブを促進する。作業療法士には、ヘルスケア場面、社会サービス、政府、非政府組織や慈善団体、学校、社会的政治的運動、活動家やロビー活動する団体において、コミュニティレベルの実践の役割を確立するという大きな潜在能力がある。作業療法士は、コミュニティ開発、ヘルスプロモーション、能力形成、環境デザイン、アドボカシーといった、コミュニティ中心の実践に適用しうる技能と知識をもっている。この声明書を、現在と将来の役割開発のために主張したり、共有できる理解を促進したりするために、使うことができる。さらに、作業療法におけるコミュニティ中心の実践の開発は、既存の個人や人に焦点を当てたアプローチを超えて、集団に対するサービスと、集合体として捉える世界観をもつクライアントへのサービスを強化する

コミュニティと社会に対するポジションの重要性

作業療法士のコミュニティの実践は、コミュニティレベルの作業遂行、参加、健康、幸福を改善することを目的とする。この声明書の目的は、作業療法士の能力に気づき主張することであり、この能力はコミュニティレベルの健康や幸福や社会的イニシアティブに対する貴重な技能と視点に貢献するものである。作業療法士は、作業に対する独自の知識をもっており、健康の決定因子としての作業、どのように人と作業と環境の相互関連性がコミュニティや住民の健康や幸福に影響を与えるかという知識である^{1,2,3,4)}。作業療法士の技能は、既存のコミュニティのイニシアティブに追加する価値であり、新たなイニシアティブの計画と促進における健康と幸福のバリアに対処する新たな洞察や方法を提供するものである。作業療法士がコミュニティで実践できる機会を増やすことは、健康を増進し、けがや病気を予防し、幸福とインクルージョンを向上し、コミュニティにおける疾病の負担を軽減するようなイニシアティブの計画と促進を強化するという目的をもつ^{2,3,4)}。

要約と結論

作業療法士は、クライアントとしてのコミュニティと共に実践するとき、コミュニティ中心のアプローチを使う。作業療法士は、幅広い場面におけるコミュニティ中心のサービスのための専門的熟練と知識をもっている。作業療法士のコミュニティ中心の実践役割の意識を高め、範囲を拡大することは、コミュニティや社会に利益をもたらす住民のイニシアティブに強く貢献することができる。

References

1. World Federation of Occupational Therapists (2010), *Statement on Occupational Therapy*. WFOT. Available at www.wfot.org [Accessed 20 January 2019] <https://www.wfot.org/resources/statement-on-occupational-therapy>
2. Hyett, N., A. Kenny, and V. Dickson-Swift, Re-imagining occupational therapy clients as communities: Presenting the community-centred practice framework. *Scandinavian Journal of Occupational Therapy*, 2018: p. 1-15. Doi:10.1080/11038128.2017.1423374
3. Scaffa, M.E. and S.M. Reitz, *Occupational therapy in community-based practice settings*. 2013, FA Davis Company: United States of America.
4. Wilcock, A. and C. Hocking, *An occupational perspective of health*. 3rd ed. 2015, Thorofare, NJ: Slack.
5. Whiteford, G.E. and E.A. Townsend, Participatory Occupational Justice Framework (POJF 2010); enabling occupational participation and inclusion, in *Occupational therapies without borders-volume 2: Towards an ecology of occupation-based practices*, F. Kronenberg, N. Pollard, and D. Sakellariou, Editors. 2011, Elsevier: Philadelphia, PA. p. 65-84.

この声明書は Nerida Hyett の博士論文の成果として作成された。この声明書の開発に貢献した人々
Virginia Dickson-Swift, Australia

Clare Hocking, New Zealand

Nerida Hyett, Australia

Amanda Kenny, Australia

Carol McKinstry, Australia

Gail Whiteford, Australia

背景付録

関連文献の概要

作業療法は「クライアント中心の保健専門職で作業療法を通しての健康と幸福を促進することに関心をもつ」1)。作業療法サービスとクライアントは、個人、家族、集団、コミュニティ、組織、住民である 1)。

作業療法士は、コミュニティにサービスを提供するために、コミュニティ中心の実践アプローチを使う。コミュニティは、流動的で変化する集団として説明され、社会、文化、空間的につながりを基盤とする。コミュニティメンバーには、人々、集団、ネットワーク、組織、会社が含まれ、多様な性質、歴史、経験、技能、資源をもつ。コミュニティは、関心事、目標、視点、活動、作業を共有することを通して形成される。それは地理的場所やその他の場面（バーチャルフォーラムなど）で生じる。このアプローチは、クライアント中心という専門職の価値観により支えられており、サービス提供の全側面において、コミュニティを中心におくことである 4)。コミュニティ中心の実践は、作業科学における作業療法士の専門性により情報が与えられ、それは作業を健康と幸福と生存の決定因子として認識することである 5)。作業療法士は、作業参加がコミュニティの健康を改善するための手段として活用しうることを議論している 5)。さらに、作業療法実践は、作業的公正により進められ、そこでは、人、コミュニティや社会、コミュニティレベルでの作業参加に影響を与える社会的政治的要因を強調する行動との間の相互関連性の批判的分析を推進する 6,7)。

作業療法士は、作業の問題、ニーズ、作業遂行と参加を拡大する行動をとることができるようになることを評価して特定するために、コミュニティをサポートする。こうした実践の目的は、共有する社会的文化的に意味のある作業、つまりコミュニティレベルでの健康と幸福を改善する作業に、コミュニティの参加を増やすことである。作業療法士は、コミュニティメンバーのためのアクセシビリティとインクルージョンを活発に推進し、個人的理由や構造的理由のために参加や結びつきが困難となっているかもしれないメンバーが排除されたり、隅に追いやられることを防いだり、最小化するような方法と技術を使う。作業療法士は、エビデンスに基づいたサービスを行い、コミュニティの健康の成果を最大化するサービスか、持続可能なサービスという点などで、短期的あるいは長期的害を最小化するサービスかを計画し、評価する。作業療法実践の例には、コミュニティの健康増進、教育、能力形成 7,8)、社会保障プログラムやイニシアティブ、作業を基盤としたコミュニティ開発 9)、自然災害リスク軽減と対応 10)、政治的アドボカシー、ロビー活動や社会運動 6,7,9,10,11)、環境的計画や再デザイン 12)が含まれる。

チャレンジとストラテジー

<https://www.wfot.org/resources/occupational-therapy-and-community-centred-practice> (2020年5月2日 吉川ひろみ・訳)

普及

増え続ける作業療法士は、コミュニティで実践している。コミュニティ中心の実践アプローチを理解し適用することは、作業療法士のコミュニティレベルでの実践の拡大を強化し、サポートする。

教育

コミュニティでの作業療法実践は、資格取得レベルの養成教育に含まれることもあるし、地域活動、プロジェクトに基づいた教育、新たな役割の実習に含まれることもある。カリキュラムは、コミュニティ中心の実践の内容や経験機械を含むことで拡大できる。これは、卒業生がこうした協働やエビデンスに基づいたアプローチについてのより深い知識をもつことを確実にする。

研究

多くの国で、作業療法士の多数派の実践は個人に対するものである。広範な場面に渡る、作業療法士の役割拡大と、コミュニティ中心の役割の採用のための主張をサポートする研究が必要とされる。これは、強固なコミュニティ中心の実践アプローチの発展をサポートするだろう。

国の協会

会員協会は、作業療法士のためのコミュニティレベルでの実践の活用と拡大を主張することが奨励されている。これは、新たな場場面でのコミュニティ中心の実践役割を作業療法士が採用するために、意思決定者の教育、役割拡大と創造の主張、サポートの提供、指導と教育が関わってくる。

References

1. World Federation of Occupational Therapists [2010], *Statement on Occupational Therapy*. WFOT. Available at www.wfot.org [Accessed 20 January 2019]
2. Hyett, N., A. Kenny, and V. Dickson-Swift, Re-imagining occupational therapy clients as communities: Presenting the community-centred practice framework. *Scandinavian Journal of Occupational Therapy*, 2018: p. 1-15. Doi:10.1080/11038128.2017.1423374
3. Scaffa, M.E. and S.M. Reitz, *Occupational therapy in community-based practice settings*. 2013, FA Davis Company: United States of America.
4. Wilcock, A. and C. Hocking, *An occupational perspective of health*. 3rd ed. 2015, Thorofare, NJ: Slack.
5. Whiteford, G.E. and E.A. Townsend, Participatory Occupational Justice Framework (POJF 2010); enabling occupational participation and inclusion, in *Occupational Therapies Without Borders-volume 2: Towards an ecology of occupation-based practices*, F. Kronenberg, N. Pollard, and D. Sakellariou, Editors. 2011, Elsevier: Philadelphia, PA. p. 65-84.
6. Whiteford, G., Jones, K., Rahal, C., & Suleman, A. (2018). The Participatory Occupational Justice Framework as a tool for change: Three contrasting case narratives. *Journal of Occupational Science*, 1-12. doi:10.1080/14427591.2018.1504607
7. Lauckner, H., Leclair, L., & Yamamoto, C. (2018). Moving beyond the individual: Occupational therapists' multi-layered work with communities. *British Journal of Occupational Therapy*, [online early], 0308022618797249. doi:10.1177/0308022618797249
8. Booth, J., & Nelson, A. (2013). Sharing stories: Using narratives to illustrate the role of critical reflection in practice with First Australians. *Occupational Therapy International*, 20(3), 114-123. doi:10.1002/oti.1343
9. Galvaan, R., & Peters, L. (2014). Occupation-based community development framework. Retrieved from <https://open.uct.ac.za/handle/11427/6651>
10. Carra, K., Hyett, N., Kenny, A., & Curtin, M. (2018). Strengthening occupational therapy practice with communities after traumatic events. *British Journal of Occupational Therapy*, 0(0). doi:10.1177/0308022618795594
11. Gerlach, A. J., Teachman, G., Laliberte-Rudman, D., Aldrich, R. M., & Huot, S. (2017). Expanding beyond individualism: Engaging critical perspectives on occupation. *Scandinavian Journal of Occupational Therapy*, 25(1), 1-9. doi:10.1080/11038128.2017.1327616
12. Moll, S. E., Gewurtz, R. E., Krupa, T. M., & Law, M. C. (2013). Promoting an occupational perspective in public health Promouvoir une perspective occupationnelle dans le domaine de la santé publique. *Canadian Journal of Occupational Therapy*, 80(2), 111-119. doi:10.1177/0008417413482271